2009 年度 JFA-47 都道府県協会訪問会議 報告

5 月 8 日静岡県、大阪府にてスタートした「JFA-47 都道府県協会訪問会議」が 7 月 12 日、千葉県、石川県で最終日を迎え、予定通りに終了した。2004 年度より夏休みを中心に会議を実施してきたが、各種大会が多く開催される時期を避け、また年度初めに JFA からの年度の重点施策等の説明機会を求める声もあることから、例年よりスケジュールを前倒しして実施することになった。

昨年と同じく、今年度も JFA 各部の部長が 47 都道府県を分担、リーダーとして訪問し、PHQ、事業部、技術部から代表者が 1 名ずつ出席する形式とした。会議は①都道府県協会と JFA が直接コミュニケーションを取る、②都道府県協会内の議論の場として活用することを目的に行った。

ミーティングは約 2 時間～2 時間 30 分を目処に進められ、前半で今年度新たに支援制度を実施する「小学生年代 U-12、U-11、U-10 の生活圏内における年間リーグの実施」について説明し、意見交換した。更には「審判員の育成と強化」、「プレジデンツ・ミッション 2009 年度業務 目標・サッカーファミリーの考え方」について JFA から説明を行った。後半では、都道府県協会からの事前リクエストテーマに基づきディスカッションを行い、今年度もできるだけ出席者全員が発言できる様に心がけた。

今回のトピックスとして以下の点が挙げられる。

- 「小学生年代の年間リーグの重要性と展開」
  昨年のこの会議で説明した「ロードマップ」の具体的なアクションとして、この年代の多くのプレーヤーが無理なく移動できる生活圏内で、年間を通じたリーグを実施することを提示し、指導者を中心とした関係者と意見交換を行った。リーグ文化醸成の重要性や意義が理解され、今後多くの都道府県協会で前向きに取り組むことが確認できた。

- 「U-18/U-15 年代の都道府県リーグの充実」
  2006 年度よりプロジェクトチームを発足して改革を進め、より多くの選手にプレー機会が確保されるために同一チームから複数チームが出場できる「都道府県リーグ」を推進してきたが、多くの都道府県で控え選手のプレー機会が増え、「Players First」の精神のもとゲーム環境が整備されてきていることを確認した。しかしながら、依然として多くの指導者に大きな負担が掛かっており、課題解決に向けた取り組みが必要であるとの声もあった。

- 「審判関係の取り組みへの高い関心度」
  都道府県協会によっては、審判に関わる取り組みが情報共有されていないと見受けられるケースがある一方で、実働審判員の不足やユース審判員の活用に関する意見が多く出されるなど、審判に対する関心度の高さを確認できた。特徴的だったことは、課題解決のための手段として、ユース審判員の登録料や資格更新期間の変更を要望する声が非常に多く、JFA の考えとのギャップが大きかったことが挙げられる。また、「1人制審判」についても多くの意見が寄せられ、実際行った関係者より、判定の難しさや体力的にハードであるなどの感想に加えて、審判員の質や能力向上、更には指導者や選手とともに「質の高いサッカー」と「リスペクトやフェアプレー精神の醸成」を目指すためには積極的に進めるべきだとの意見もあった。

- 「自主財源確保への意識向上」
  「プレジデンツ・ミッション トピックス」では、自助努力、主に資金調達（スポンサー獲得）や人材確保において、他の都道府県協会がどのような活動や工夫をしているか紹介して欲しいとの要望が特に多かった。また、「スポーツ振興くじ（toto）助成」を積極的に活用する都道府県協会が増えてきているなど、考える段階から行動する段階へ移行しつつあることも確認できた。

- 「新たなコミュニケーション機会の創出」
  都道府県協会理事を中心とした出席者に変化はなかったものの、「小学生年代の生活圏内リーグ」のテーマによるディスカションが行われるとのことから、都道府県協会では小学生年代の活動に携わっている地区や市区郡町村協会の関係者に出席を呼びかけ、JFA と都道府県協会だけでなく、地区や市区郡町村協会も含めた意見交換が多く行われ、新たなコミュニケーションの場にもなっていた。

- 「会議を終えて都道府県協会から寄せられた声」
  会議終了後、例年通り、専務理事はじめ出席者へのアンケートを実施。概ね満足しており、 来年度以降の開催要望も多かった。しかしながら、「説明に要する時間が長く、議論する時間が足りない」、「もっと突っ込んだディスカッションをしたい」などの意見もあり、テーマの内容と数、また、テーマに応じた関係者の出席調整など、次年度へ向けた課題も明らかになった。